【2023 年度　自己評価結果報告書　】

2024 年 3 月作成
飯倉幼稚園

1．本園の概況

組織の目的

学園の経営理念（ポリシー）

時代の流れを的確につかみ、未来を担う子どもたちの健全な育成を目指し、
満足できるサービスを提供することにより、地域社会に貢献してまいります

学園の経営目標（ビジョン）

地域に欠かすことのできない 100 年続く学園の想設

学園の経営方針（ミッション）

1. 「子ども」第一主義で行動する
2. 「教育」を通じて子どもの成長を促す
3. 「保護者」のニーズを的確に受け留める
4. 「人的・物的環境」の整備徹底を行う

幼稚園の教育理念（教育目的）

音楽を通じて情操教育とたくましい体力づくりで調和のとれた教育をめざす

幼稚園の教育目標（基本方針）

自ら立ち、自ら考え、他人を思いやることができる
真の「生きる力」をもった人物を育成すること

幼稚園の教育方針（教育内容）

1. 【健康】幼児体育（体力を育む）
2. 【表現】幼児音楽（感性を育む）
3. 【思いやり】幼児体験（心を育む）・たてわり保育・食育

今後重点的に取り組む目標、計画

幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、幼稚園が今後担う役割について検討する。

2. 昨年度の課題についての取り組み

課題１	具体的な取り組み方法
指導計画について	保育の「見える化計画」２期目として、SDGｓの視点から、今年度書き出した内容の「見直し」を行う。さらに、実践、振り返りを繰り返しながら、子どもたちにとってよりよい保育、環境とは何か？を考え、指導計画を立てていく。毎月のカリキュラム時には、現在の子どもの様子を踏まえながら柔軟な保育が実践できるよう検討していく。
実際の取り組み	新型コロナウイルス感染症が５類引き下げになった事により、様々な行事での制限を解除。コロナ禍前の形にそのまま戻していくのではなく、カリキュラムの見直しを行い、現在の状況や子ども達にあった形で行事を行う事が出来た。指導計画について、年度初めに職員それぞれの目標を明確にし、保育を行う事が出来た。（資料 1-1）特に飯倉幼稚園の特色教育でもある、音楽と体育において、昨年度までの分散形式の「運動会」や「おゆうぎ会」を園児全員で開催することが出来たことにより、年齢毎の成長や行事へ向かう気持ちを育てる事、相手を思いやり応援するなど様々な経験をすることが出来た。また、行事のプログラムもクラスの垣根を越えて発表することが出来た事や、コロナ禍により制限していた保護者の方の見学も再開したことにより、園生活を送る園児の姿を直に保護者の方に見ていただき、子ども達の成長を間近に感じていただくと共に、家庭との連携を更に図るきっかけとなった。（資料 1-2）

課題２	具体的な取り組み方法
教師の資質指導向上にむけて	指導計画と同様、「見える化計画」２期目として、SDGｓの視点を持ち、業務教務改革を行う。また、指導力の向上を目指し、多くの園内外の研修に参加できるようにする。ティーム保育に力を入れて、同じ学年だけに関わらず、様々な学年の保育に参加すること、学年合同で行う保育を実践する機会を増やすことを目標とする。さらに、交流保育などを通して他園の園児や教職員との関わりを持ち、自園を見直す視点を持つよう心掛ける。

実際の取り組み	幼児期の心の発達にとって最も大切な事は、愛着形成といわれている。新型コロナウイルス感染が落ち着き、パーテーションの廃止、マスク着用が不要となったことにより、教師と子どもとで豊かな表情やで、より密接にコミュニケーションを取ることが出来るようになった。（資料2-1）また、上記にも挙げたように活動の制限も解除され、クラス内・学年毎の活動が園全体での活動として動く事が出来るようになった。このことにより、ティーム保育として様々なクラスや学年の保育に参加することで、「全職員の眼で全園児の成長を見守ること」という目標を昨年以上に達成することが出来た。また、交流保育として連携施設保育園の園児を迎え、園児同士の交流を深める事ができ、地域交流の一環としても活動を行う事が出来た。（資料 2-2）「見える化計画」の 3 か年計画としての長期目標、計画内容、方向性を職員で研究を重ね、SDGS＝「持続可能な幼稚園」を目指し、園内研修やリーダー会議にて課題や目標を見つける事が出来、チーム力向上に繋がった。特に今年は、毎月のリーダー会議にて各方面のプロジェクトチームの動きを共有し、改善点を考察することが出来た。（資料 2-3）また、園児の命や安全を守るために、車内置き去り防止装置カクニンくんの取り付けや安全運転講習を行うこと、救命講習を全職員で受ける事が出来た。にじいろ CAP 研修にて、子どもが持っている、特別に大切な「安心・自信・自由」の３つの権利について学び、資質向上を図ることが出来た。（資料 2-4）

3.評価項目および取り組み状況

評価分類		取り組み状況
保育の計画性	園の教育理念・教育方針の理解	○園の教育理念や教育方針を常に理解し、教職員で話し合い園の目指す幼児の姿を具体的にイメージしながら日々の保育にあたっている。
	指導計画の作成	○園の方針を指導計画や保育に生かし、教育要領や幼児の実態等を元に考えて作成している。 ○長期の指導計画は毎年見直しを行い、また短期の指導計画は幼児の実態に常に対応できるような順応性のあるものにしている。 ○総合的な活動ができるように考慮して作成している。
	環境構成	○　指導計画に基づいて幼児が主体的に関わりたくなるようにまた安全面に考慮して環境構成をしている。 ○　楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる、時間や環境の構成に努めている。 ○　季節の変化や、幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている。
	保育と計画の評価と反省	○　自分の保育の評価と反省を日々、保育日誌として記載し、月ごとに職員で、反省・評価を行っている。

		○ 評価・反省は次の保育を見直す材料となるよう反省ノートとしてすぐ開示できる。
保育の在り方 幼児への対応	健康と安全への配慮	○ 幼児の体調には常に気を配り体調が悪そうな幼児には安静や検温など適切な処置を行い家庭に連絡を入れるようにしている。 ○ けがや事故には特に気を配り、危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり考えたりして気付かせるように配慮している。 ○ 園内に危険な箇所がないか、遊具は安全か毎週点検を行っている。 ○ 感染状況等は、ほけんメールとして、保護者に配信している。
	幼児のみとりと理解	○ 一人ひとりの幼児をよく理解する為には、観察、予測、推察が大切であることを理解し、自分の一方的な感じ方や考え方で決め付けないよう心がけている。
	指導とかかわり	○ 幼児にあわせて同じように動いたり同じ目線にたってものを見つめたりするように心がけている。 ○ 遊びの援助者であることを理解し幼児にヒントやアイデアをすぐに提供できるようにしている。 ○ 幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有している。 ○ 異年齢児とのかかわりがもてるように、ティーム保育（たてわり保育）を取り入れている。
教師としての資質や能力・良識･適性	専門家としての能力･良識･義務	○ 幼稚園教諭としての専門知識や技能を常に身に付けていけるよう年間を通しての研修や講習会に参加している。 ○ 良識ある社会人としての心がけを忘れない。 ○ 職員のしおりを作成し、飯倉幼稚園の職員としてのあるべき姿を共通理解できるよう努めている。
	組織の一員としての在り方	○ 教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
保護者への対応	情報の発信と受信	○ 連絡帳を利用して、幼児の様子を写真などを交え、伝わりやすいように配慮しながら、知らせている。また日々の様子について特記すべきことは必ずその日に連絡をとるようにしている。 ○ ホームページやインスタグラム等の SNS で園での様子を配信している。 ○ 園だよりでは、写真を取り入れたり、子どものつぶやきを入れるなど、わかりやすい情報公開に努めている。 ○ 保護者からご意見をいただいた場合は、まず謙虚にその話を聞き、内容によっては、職員全体で検討し、共通理解の上で対処している。

研修と研究		○　年間を通じての研修、および園児夏休み中に集中研修をうけている。また、オンライン研修なども活用し、多くの研修に参加できている。 ○　園内研修を設け、研修内容を教職員で共有し保育に生かせる工夫をしている。 ○　研修後は報告書の作成を徹底している。 ○　ティーム保育として教師が他のクラスに入り、クラス担任の保育を見学して、保育の意見交換をし　職員全員で全園児を共通理解できるように、園児の個性を共有する時間を取っている。

４．今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画について	「見える化計画」３期目として、今年度「見直し」をしたカリキュラムを「やってみる」という実行の年にする。これまでの２年間で現状を把握・可視化した事を実践する事により、今後の指導の計画を改めて立て直し確立する事を目標とする。年齢毎の指導計画を再構築し、目標の基盤を作る事により、その時の子どもの様子や時代に合った柔軟性のある保育を展開することを目指す。
教師の資質指導向上にむけて	自園の特色でもある、職員の研修・研鑽の場にもなっているティーム保育の回数を更に増やし、園児の共通理解、保育内容の研究などを行っていく。また、このティーム保育を基に園内研修を取り入れるなど、教師一人ひとりが意見交換をしながら、保育の疑問点や改善点などを話し合う場を作ることを目指す。このことにより、教師同士のコミュニケーションの場を作るなど、チームとしての意識を更に深める事が出来るようにする。また、交流保育や連携施設園との関わりを密接にする事で、他園や地域など広い視野で飯倉幼稚園を客観的に捉えることで資質指導向上を目指す。業務の面では、今年度も実施した「見える化ボード」を更に活用し、様々な職員の視点から改善点を提案し、業務の効率化を図ることを目標とする。

５．施設関係者評価結果について

ホームページ上に「結果報告書」を公開しています。

６．財務管理

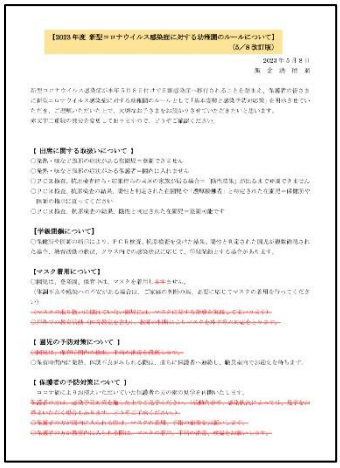
公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

７．本、自己評価結果について

ホームページ上に「結果報告書」を公開しています。

資料１－１

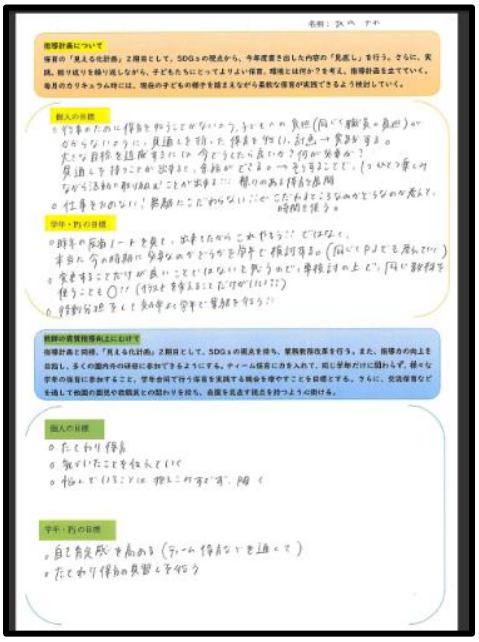
【幼稚園の基本姿勢と感染予防対応策を改訂】



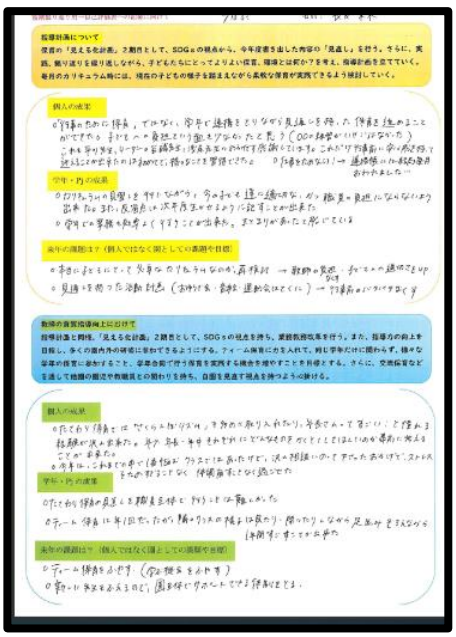
新型コロナウイルス感染症が
５類感染症へ移行されることを踏まえ、
幼稚園のルールである
「基本姿勢と感染予防対応策」
を改訂。
様々な制限を解除

【指導の取り組みについての PDCA】「Plan（計画）」「Do（実行）」「Check（評価）」「Action（改善）」を実行

前期の目標



後期の振り返り



学年や個人で年間の目標を立て、一年間子ども達の保育の研究を重ねた

【カリキュラムの見直し】

	カリキュラム、行事	見直したもの	結果、次年度に向けて		カリキュラム、行事	見直したもの	結果、次年度に向けて
4月	おお春表　固形あそび	機能一それぞれのおーつずつにした 固形あそびが初めてだったこともあり、 機能だと難しいと感じたため	年中の4月の時期に適した内容だった		作って遊ぼう(廃材)	4日ほどの日程を立てて行った。 すみれのお船、他クラスは進めてけった。 テーマを決め、テーマに沿って自由に作る	廃の方が伸び伸びと作ることが出来ていたと思う テーマを決めると、協力する姿も見られた。
	こいのぼり	・しっぽの部分を子ども達で切った (高齢で切る活動は年少で行っていたため、今回は教頭時に切るというこを行った) ・うろこの部分の折り紙も子どもが半分に切った	・切るという活動に重点を置いて行い、 それぞれ違う素材を切る感触も味わえた ・ほぼ全員が経験なしで切ることが出来た	10月	落ち葉遊び	お散歩のときに拾ったものは使わずに、 作品の説明をした後に園庭に拾いに行った。 お手本を何個か作った。	説明をした後だと作るものを考え、それに合った落ち葉を選ぶ姿があった お手本があった方が、想像力が膨らんだ
5月	豆苗を育てよう！	豆苗を観察しよう！ 今年度は2つ用意して、1つは沢山お世話をして優しい言葉を掛けるもの、もう一つはお世話を全く何もしないものにし、成長の違いを比べた	・言葉の大切さ、心の成長により関がった ・成長の差が大きく、目で見て分かりやすかった		千歳あめ	千歳あめの文字はお部屋切りで切ることで上手に切ることが出来ていました。 先生あり入れずに箱の高さだけで行うと箱間に色が付き忙しくも見やすい。 豆は2つにし、2つ目をイチョウかお葉柔へも入るにした。また色は赤でやった。	色を少なくすることで保育士の負担が減り、また子ども達もあり効率すムムーズに取り組めた
	折り紙「こより」	折り紙「チューリップ」 ことは、折ること自体は簡単だが完成したときの可愛さが分りにくかった。現実で所るこということを分かりやすくするため、チューリップ花と感覚を掴みやすいのでは話した。	感覚を掴みやすかったため、子ども達自身で折り進めることが出来た	11月			
6月	七夕飾り	今年度はデカムコマニーと言うは法で行った。 片面だけでなく和面に自由に描くことで、個性あふれる作品となった	どんな模様が出るのか、わくわくしながら取り組むことが出来るため良かったと思う新しい技法でも楽しめる	12月	とんがり帽子	変更なし	
	折り紙(かたつむり)	「かたつむり(どかえる)」を作った。 「かえる」はカリキュラムとしてではなく、遊びのなかで行った。 遊びのなかで行うことで折り紙への興味が薄くのではと、話した。	遊びのなかで行うことで、子ども達も自ら進んで作ろうとする姿が見られた。 遊びとして折り紙を取り入れると楽しく取り組むことが出来た。	1月	鬼のお面	四角と丸型のパーツを合計6色で用意した。つのはのびしも部分を作った。 サイズが大きかったため、少し小さいものを製作した。	鬼の方が伸び伸びと作ることが出来ていたと思う テーマを決めると、協力する姿も見られた。
7月					豆入れ袋	変更なし	
8月				2月	ひな人形	変更なし	折り紙を間違える子どもが多かった。 工程が多い為細かく説明した方が間違える子どもが減ると思います
9月	ほさみ(ギザギザ線・波線)	今年度はギザギザ線と波線を同時に進めた。一緒に進めることで、線の違いに気付きながら取り組む事が出来た。	ギザギザ線と波線を一緒に進めていきたい	3月			
	運動会の絵を描こう	見本を見せすぎてしまうと、見本通りに描いてしまう様子があった為、今回は見本を前に掲示しなかった。	子ども達と振り返りながら、自由に表現することが出来、良かった。				

「見える化」表を作成し、
各学年これまでのカリキュラムの見直しを実践

カリキュラムを見直した内容を示すと共に、
次年度以降どのような形にするのか
考察することが出来た。

資料１－2

【コロナ禍を経た行事の動き】　2023 年度は主な行事をすべて園全体で開催

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
運動会	学年毎の園庭	学年毎の園庭	全体	全体
おゆうぎ会	クラス毎の園	クラス毎の園	全体	全体
音楽発表会	クラス毎の園	中止	全体	全体
誕生会	各クラス	各クラス	学年	全体

コロナウイルスの５類引き下げによりマスク着用義務がなくなった事で、
声や表情に着目したテーマ設定を行った

卒園記念の陶芸作品を、４年ぶりに親子一緒に製作

【プログラムについて】　人数制限を解除出来たことで、プログラムも改訂

マーチングを 108 名で披露

音楽発表会やおゆうぎ会の構成も幅広く披露

資料２―1

【保育環境の変化】

パーテーションや CO2 センサー、
マスク着用など、感染予防対策を実施

子ども同士より近い距離で密接な関わりを深めることが出来た

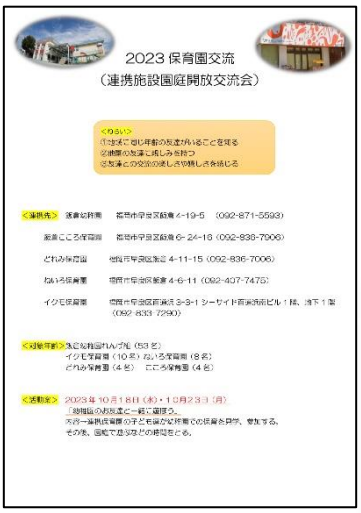
クッキングも再開

教師と子どもと共に
豊かな表情で
コミュニケーションを
図ることが出来た

資料２―２

飯倉幼稚園　園外交流カリキュラム　　2023年度

	全体	飯原保育園（年長対象）	飯倉こころ保育園 ねいろ保育園 どれみ保育園 イクモ保育園 （れんげ対象）	職員チーム保育		備考（行事等）
				園内	保育園	
4	こいのぼり見学					
5	園外教育 年長 5/31(月) 年中 5/31(水)			学年間チーム保育		
6		結隊顔で遊ぼう （教育実習長生がくる）		学年間チーム保育		
7					保育園見学 （思い学び5/） ※夏野み遊び？	
9					保育園見学 （思い学び5/） ※夏野み遊び？	
10	園外教育（年長） 園外教育（年少） 園外教育（年中）	保育園で遊ぼう （結隊顔年長児が保育園へ行く）	保育園のお友だちが幼稚園探検にくる	低学年チーム保育 園内見学		
11	芋掘をしよう （年中・年長）			低学年チーム保育 園内見学		
12						
1						
2		なのはな大会？ ドッジボール大会？ 1/28				
3			お友達と一緒に遊ぼう			



2023 保育園交流
（連携施設園庭開放交流会）

<ねらい>
①幼児期に同じ年齢の友達がいることを知る
②地域の友達に親しみを持つ
③友達との交流の楽しさや難しさを感じる

<場所先>　飯倉幼稚園　　福岡市早良区飯倉 4-19-5　（092-871-5593）
飯倉こころ保育園　　福岡市早良区飯倉 6- 24-16（092-838-7006）
どれみ保育園　　福岡市早良区飯倉 4-11-15（092-836-7006）
ねいろ保育園　　福岡市早良区飯倉 4-6-11（092-407-7475）
イクモ保育園　　福岡市早良区百道浜 3-3-1 シーサイド百道病院ビル 1 階、地下 1 階（092- 833- 7290）

<対象年齢>　多くの幼稚園れんげ先（53 名）
イクモ保育園（10 名）ねいろ保育園（8 名）
どれみ保育園（4 名）　こころ保育園（4 名）

<活動案>　2023 年 10 月 18 日（水）・10 月 23 日（月）
「地域の幼児と一緒に遊ぼう」
大きな遊具保育園の子ども園児が幼稚園の保育を見学、参加する。
その後、園庭で昼食などの時間をとる。

連携施設保育園との交流保育

飯原保育園の年長児との交流では、同学年のお友だちの輪が広がった

親子教室では幼稚園体験を実施

新しいお友達を迎える事で思いやりの気持ちが育まれた

資料２―３

見える化計画の２期目として、昨年度書き出した業務やカリキュラムを見直す年にした

PJ報告書

PJ名			
	先月の課題	今月の活動	来月の目標
内容	先月に出た課題を書き出し どう改善をするといいのかを記入する 他者の意見も取り入れる	先月の課題を見直して、改善した所を記入する 取り組んでいる途中経過も記入し何をしているのかわかりやすくする 行ってみてどうだったのかも書けると良い	今月の活動を行ってみて、改善するところを記入したり、他の改善しなければならないことを記入する

PJ名	こころPJ （5月分）		
	先月の課題	今月の活動	来月の目標
内容	①それぞれのPJの業務内容が見えにくい →それぞれのPJがどのような役割を担っているのか、曖昧で分かりづらい。 ②昨年度まで使っていたサンクスカードのボードを活用したい ③上靴（貸し出し用）の収納場所の整理 →貸し出し用の上靴の整理が出来ていなかったため、上靴のサイズや数等の把握が出来ておらず、必要な時にすぐに準備できない。 ④職員のデスクの整理整頓 →園全体の清掃や整理整頓を行っている上で、子ども達には伝えているが、職員の身の回りの整理整頓も意識して行うべきではないか。	①・② →それぞれのPJの業務内容を職員全体で確認し、以前のサンクスカードを『PJボード』として活用した。『PJボード』には、PJの改善提案の見える化表を掲示して、気軽に記載出来るようにした。 ③ →上靴がどのくらいあるのか、各サイズの数を把握した上で、場所を確保し、サイズごとに見やすいように分けて整頓した。また、上靴箱をもう少し増やす事で、今後増えていった際にもかさ張ることなく収納が出来るよう、牛乳パックを使用しようと考えている。 （先生方に牛乳パックの回収にご協力をいただいているところです。） ④ →デスク周りの整理整頓について、視覚的に見えるように、カードを作成した。退勤前にチェックする事で、先生方一人一人が意識して身の回りの整理整頓が出来るようにした。	★まずはこころPJが、それぞれのPJへの改善提案を『PJボード』へ記載すること →他のPJの業務内容を見つめ直し、改善点を考える。 ★上靴（貸し出し用）の収納場所の作成 →整理して収納するための改善として、収納方法を変更しようと考えていたが、材料が集まっておらず作成に至っていない。 ★見える化に関して →カリキュラムの見直しがしにくい為、各月の振り返りをしやすくする為に表の工夫をする等、考える。

毎月の会議にてそれぞれの PJ（プロジェクトチーム）で話し合った課題や目標を持ち寄り、共有・意見交換を行った

資料２―４

園児の命を守るため、安全講習を行い、カクニンくんを設置

にじいろ CAP 研修を受講

園児の目線になって物事を見てみよう体験

福岡市消防局の方による

出張救命講習を

職員全員で受けた